

MATH やらまいかジャーナル



A Journal of MATH yaramaika

令和3年度（2021年度）12月 開催

「第9回MATHやらまいか決勝大会」

活動レポート



トップガン教育システム協議会が主催する「第9回MATHやらまいか決勝大会」は、令和3年12月18日(土)13時00分より、浜松科学館みらい～ら1階ホールにて開催されました。

「MATHやらまいか」は小学1年生から6年生の児童が「算数」のゲームを通してよく見る力・よく聞く力・よく考える力(着眼・推理・分析・思考力)を養いながら、速さと思考力を競う大会であり、2013年の創設以来、今年で9回目の開催となります。本年度、令和3年10月1日(金)～令和3年10月31日(日)にかけて、インターネット上で行われた予選大会には630人が参加し、得点上位30名の小学生が決勝大会に進出、会場へと足を運びました。

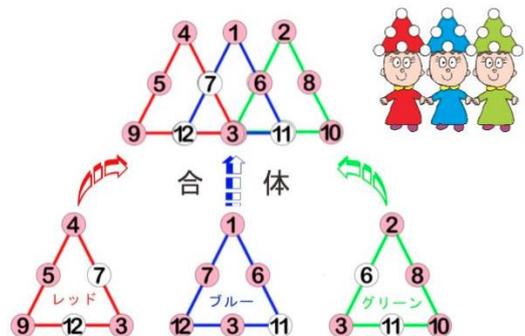
「MATHやらまいか」の目的は、算数の本当の面白さを児童に伝えることにあります。算数や数学の面白さ・重要さは「考えること」にありますが、小学校で通常行われている授業やテスト

では、思考の過程に関わらず、答えが合っていなければ「算数が出来ない」ということになってしまいます。「MATHやらまいか」では、ゲームを通して「問題についてとことん考える」機会を与えることによって、算数の本当の面白さを伝えるきっかけづくりを行っています。

また、大会を通して発掘された優れた算数・数学の才能を持つ児童に対しては、優れた才能をさらに伸ばし、将来的に数学オリンピックに挑戦すること等を視野に入れた、長期的な指導も行っております。

○予選大会について○

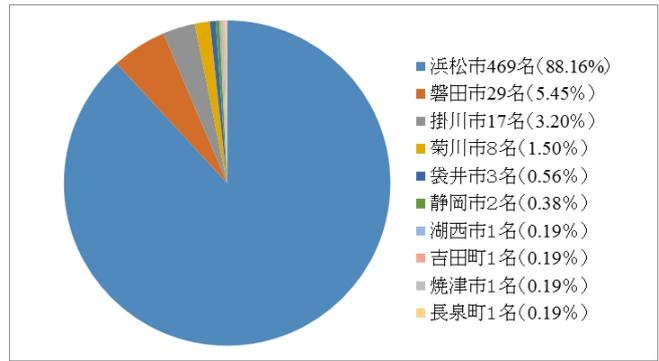
本年度の予選大会は、「仲良し三つ子」という題で、空欄を埋めて数字の三角形を完成させる、数字とかたちのパズルを行いました(ゲームの概要は右図。詳細なルール等については、HP (<https://math-yaramaika.com/>) 上で確認することができます)。最高得点は2,580点。予選期間を経過した現在もホームページ上にて予選問題を公開しておりいつでも・誰でも挑戦することが可能です。予選大会には浜松市内の小学生(469人)だけでなく、浜松市外の小学生(63人)、また、中学生や大人の方(98人)も挑戦し、点数を競い合っていました。



○決勝大会について○

決勝大会への出場者 30 名の地域の内訳は浜松市 28 名、静岡市 1 名、磐田市 1 名でした。

決勝問題のタイトルは「そう簡単には相貫体」です。これは、予選問題を立体化し、空欄を埋めて数字の三角錐（正四面体）を完成させる問題です（概要は右図）。問題は全部で 12 問。難しい問題を、ヒントを使わずに、早く解くことができれば高得点となります。参加者の皆さんはタブレット端末に向かって、1 時間、競技に取り組むこととなります。



第 9 回予選大会への地区別参加状況

<決勝大会の要項>

- 日 時：令和 3 年 12 月 18 日(土)
- 会 場：浜松科学館みらい～ら
- 人 数：30 名（保護者同伴）
- 対 象：予選ランキング上位者のうち、当日参加可能な小学生。ただし、浜松市外の小学生については予選ランキング 30 位以内の最大 10 名までを対象とします。

○参加料：無料

○主 催：トップガン教育システム協議会

(協議会構成員：静岡県・浜松市・浜松商工会議所・浜松市教育委員会・株式会社乃村工藝社株式会社 S B S プロモーション共同事業体・公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構・浜松医科大学・光産業創成大学院大学・静岡大学・浜松いわた信用金庫・ヤマハ株式会社・静岡銀行)

○共 催：浜松市、静岡大学、浜松医科大学、浜松科学館みらい～ら

○後 援：浜松市教育委員会、湖西市教育委員会、磐田市教育委員会、袋井市教育委員会、森町教育委員会、掛川市教育委員会、菊川市教育委員会、御前崎市教育委員会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送

○協 賛：株式会社 C A I メディア、浜松いわた信用金庫、須山建設株式会社、丸八不動産株式会社、株式会社ソミック石川、株式会社第一印刷、株式会社丸八、株式会社ヤマザキ、合同会社塩塚、株式会社アーシス、日研フード株式会社、やまと興業株式会社、ヤマハ株式会社、静岡銀行

そう簡単には相貫体 ルールの説明

予選問題「なおよし三つ子」の三角形を三角ピラミッドにした問題じゃ！
 (1) ピラミッドの数字のたし算を三つとも同じにするのじゃ！ 時間は60分じゃ！
 (2) ピラミッドの中の10箇の数字は全部ちがうのじゃ！
 (3) 合体したとき、1から始まる数字が1回だけ現れるのじゃ！
 ・問題の数は全部で12じゃ！どの問題からはじめてもよいのじゃ！(問題の番号を必ず)
 【得点】・問題を正解することにより得点が加わるのじゃ！
 ・時間内に全問正解した場合は残り時間が得点にたされるのじゃ！(1秒1点)
 ・一番多く得点をとった者が優勝じゃ！前点の場合は、予選の点が高い方の勝ちじゃ！

完成済 今 まだ
 1 2 3
 70点 70点 80点
 残り時間 59:58
 現在の得点 0

合計 ヒント かんせい
 合計ヒントをタップ：完成したピラミッドの数字の合計を表示
 ヒントを使うと得点が-10%
 問題が完成したらタップ 正解なら次の問題へ進む
 電車ヒントをタップ：現在のピラミッドの数字の合計を表示
 ヒントを使うと得点が-10%

決勝問題「そう簡単には相貫体」の概要

○決勝大会のようす○

決勝問題には、静岡大学学長 日詰一幸先生、浜松医科大学 山本清二先生による両大学合同チームも挑戦し、大会を盛り上げました。会場では、全員の得点と順位がリアルタイムで映し出され、後ろで見守る保護者の皆さんもドキドキしながら応援します。



懸命に競技に取り組む児童

○表彰式について○

今年度は、決勝大会入賞者の表彰に先立って、6年連続での決勝大会出場を果たした堀内陽太さん（浜松市立佐鳴台小）と櫻井純之介さん（静岡大学教育学部附属浜松小）の2名の表彰が行われました。本当におめでとうございます！



懸命に競技に取り組む大人



6年連続出場者 堀内陽太さん（左）と櫻井純之介さん（右）

○大会の結果について○

6年連続出場者表彰に引き続き、いよいよ決勝大会の入賞者が発表されます。第9回大会の第3位は静岡大学教育学部附属浜松小5年 大石康介さん(写真左)、第2位は静岡大学教育学部附属浜松小6年 櫻井純之介さん(写真右)、そして優勝は、浜松市立浜名小6年 八木雅仁さん(写真中央)です。入賞者には、木村雅和先生から、メダルと表彰状が授与されました。入賞された皆さん、本当におめでとうございます！



第9回決勝大会入賞者記念撮影

総評

決勝大会に参加した30名の皆さん、今日はお疲れ様でした。

予選には600人以上の方が参加しました。皆さんは多分、予選問題に何回も何回も挑戦して、どうやって解いたら、いい点数取れるかな？ どうやったら、もっと早く解けるかな？ いろんなことを考えたと思います。そうやって毎日努力して、そうしてここにやって来たというのは、とてもすごいことだと思います。自信を持ってください。そしてもっともっと、算数を好きになってください。

そしてその中で、1位から3位に入った子は、もっとすごいですね。初めて問題を見て、その場で早く解く方法を考えるということを、この緊張する場で集中して成し遂げた皆さんは本当にすごいと思います。本当におめでとうございます。

算数の問題には、急いで頭を回転させて解いていくと早く解けるといいうものもあるし、またどういふふうによったら早く答えにたどり着けるかなと、じっくり考えることが大事な場合もあります。

その両方を行いながら、限られた時間の中でどうやって解くかということ、これを考えるのが、算数の楽しいところですね。皆さんはそういうのが得意だと思うので、これからもどんどん算数を好きになって、どんどんチャレンジしてください。

算数っていうのは非常に役に立つ物です。今はコロナ禍で、色々なことが問題が持ち上がっています。例えば誰かが咳をすると、飛沫がパッと飛んで行きます。どこに、どうやって飛ぶのか、それを計算するのも算数です。算数は、将来いろんなことに役に立つと思います。これからどんどん勉強して、ますます頑張ってください。今日は本当にお疲れ様



でした。これで総評を終わらせていただきます。

光産業創成大学院大学教授 石井 勝弘先生

閉会の言葉

こんにちは、浜松医科大学の山本です。皆さん今日はお疲れ様でした。一生懸命に計算して、皆さんはまだ、手の感覚が抜けていないかもしれませんが、第9回 MATH やらまいか決勝大会の閉会にあたりまして、ひとこと、お話しさせていただきます。

この決勝大会、参加できてよかったな思っている人、手を上げてください……じゃあ、精一杯頑張ったぜという人、手を上げてください……もうちょっと頑張れたなと思う人、手挙げてくれる？……はい、ありがとうございます。みんな、目標が高いんだと思います。とっても大事なことです。次はこうしよう、次はこうなりたい……そういう気持ちはどんどん自分を高めていきます。その気持ちを、どうか忘れないでいただきたい。

お父さん、お母さん。子供たちを見て、ああ頑張っているんだなと思われたと思います。



世の中に出て仕事をしたり、お金をもらっているんな事をするのに一番大事なことは、自分が楽しいと思うこと、好きだなと思うこと、やりたいと思うこと、それを精一杯できるかどうかということです。それができるかどうかによって、その人の能力が決まると思います。

仕事にはいろんなことがありますし、嫌なこともあります。嫌なことを精一杯できるというのは、何より、楽しいことを精一杯楽しむことができるという能力があるからなのです。お父さんお母さんをお願いしたいのは、みんなが好きだ

なこと、楽しいなこと、これをやりたいと言っていることをやらせてあげて欲しい、ということです。自分のやりたいことができる、という状態こそが、子どもたちの将来につながっていくと考えていただけたらと思います。結果としてそれが、子どもたちの将来の選択肢に繋がっていくのです。

選択肢は一個ではありません。たくさんある中から一つを選んでいくというプロセスも大事なことです。やりたいことを、たくさん、どんなことでも精一杯やって、自分自身を探せるような環境を与えてあげるといいかなと思います。そうすれば、どんどん可能性が広がっていくと思います。

来年もここで会えるように頑張ってください。お疲れ様でした

浜松医科大学 理事・副学長 山本 清二先生

優勝した八木さん 感想

MATH やらまいかのような何かの大会で優勝したのは初めてなので、今までで一番と思えるぐらいうれしい出来事でした。予選、決勝を通して挑戦する勇気、自信を得ることが出来ました。今年の予選問題に初挑戦したときは1問も解けませんでした。でも、解くための方法をあきらめずに考えました。色々な工夫をすることで解けるようになってきました。決勝では予想してなかった立体図形の問題を見たとき一気に不安になりました。けれど2回目の決勝だったため冷静に最善策を考えることが出来ました。それはヒント機能を使ってでもより多くの問題を解こうというものでした。残り10分の途中経過では9位ぐらいだったので結果発表の最後に自分の名前が呼ばれて本当に驚きました。時間ギリギリまであきらめずにやれたのがよかったのだと思います。MATH やらまいかの過去の問題も解いてみました。とても面白かったので、いつかは作る側になってみたいと思いました。



浜松市立浜名小学校 6年 八木 雅仁